

東日本大震災から5年が経過しました。阪神淡路大震災からは 21 年、そして昭和南海地震からは 70 年が経過しています。温故知新という言葉がありますが、私たちはこれら過去から多くのことを学びつつ、来たる南海トラフ大震災に対応していきたいと思えます。

## DMAT ロジスティックチーム研修(インストラクター研修)が徳島で開催されました

DMAT では毎月 1 回の隊員養成研修以外に、年に1回、ロジスティックチーム隊員の養成ならびにインストラクターの質維持向上を目的とした研修会が開催されています。開催場所は、「過去、そしてこれから被災地となるであろう場所」。ここ数年は東北地方と四国各県が交互に選ばれており、今年度は徳島県が会場でした。

日時:平成 28 年 3 月 26 日(土)13 時から 27 日(日)16 時半

内容:(初日)徳島市内のホテルで頭上訓練とケーススタディ (二日目)美波町由岐公民館、東由岐「康暦碑」、海陽町浅川天神社 視察  
参加者は全国から 120 名以上の DMAT インストラクター。夜遅くまで熱心な情報交換が行われました。

以下参加者からの声です。

27 日に美波町由岐公民館で、南海地震の経験者、91 才の語り部、まなみ(名字)さんのお話を拝聴いたしました。頭の中で想像しながら聞きました。

寒さの中、夏の浴衣と越中ふんどしで、ひいお婆さんを背負い、もうひとりのお婆さんの手を引き、必死に逃げた様子が伝わりました。力強く語ってくださった、まなみさんのお話を子供達に伝えたいと思い、子供達へ送る言葉は何かありますかと、質問させていただきました。子供を持つ人達に伝えたい。まなみさんからの思い。

「1 cm でも 5 cm でも少しでも高いところへ逃げなさい」

「災害が地震が津波がどんなものか、自分がわかるように、自分のものにしなさい」

娘たちに、伝えました。

まなみさんの思いを、無駄にしたいくないです。

もし、子供がいらっしゃるなら、是非、教えてあげてください。この機会を提供していただきました皆様に感謝いたします。(徳島市からの参加者、看護師)



1 日目は徳島県想定DIG訓練、御嶽山噴火と東北豪雨災害のケーススタディ訓練

太平洋に面する高知県と徳島県は、気候良く、自然あふれる自慢の県ですが、地震発生時には甚大な被害を受けます。徳島県の被害想定も、津波、倒壊、地盤の液状化、火災、、、考えたくない位の死者数と重症患者想定でした。

2 日目は徳島の地震・津波碑の視察(昭和南海地震・安政南海地震)

実際に終戦後におきた昭和南海地震を経験されたマナミさん(91歳)のお話を伺いました。

御自身の恐ろしく辛い体験を、後世に伝えるため、子供達を護るためにと詳しく話して下さる姿はとても凜として、力強さを感じました。また、浅川地区・津波碑を巡っている時に教育委員会の近藤さんから聞かせていただいた事実。

『地震がおきて、井戸の水が減ったら津波がくる。高台に逃げる時に動けない年寄りや、弱った家族が一緒だと皆が津波にのまれる。連れて行けない者は柱に縛りつけて逃げた。柱に縛りつけるのは、せめて遺体が津波で流されないようにと、、、遺体を埋葬できるようにと、、、柱に縛りつけた。』

いくつも残された津波碑や慰霊碑、語り部として活動されているマナミさん、史実を伝えている近藤さん、災害に備えるべく動いてはる地域、医療、行政の人達。繰り返し確実におきる南海トラフ地震や災害に備えて、大切な命と故郷を護りたいという真っ直ぐな『思い』を学び、篤い仲間とご縁を繋げさせていただいた2日間でした。(高知県からの参加者、看護師)



安政南海地震の碑

## 今後の災害対策委員会の予定

委員会では、来年度も引き続き様々な活動を予定しています。皆様是非ご協力ください。

(予定) アクションカード(火災編)の作成、傷病者受け入れ図上訓練、災害対策本部立ち上げ訓練、院内職員安否確認訓練、非常食体験、クロノロの書き方、災害対策マニュアル見直し、など